

2014 年度 大阪女学院大学 自己点検評価報告

I. 大阪女学院大学の目的

「大阪女学院大学ミッションステートメント」

本学は、キリスト教に基づく教育共同体である。その目指すところは、
真理を探究し、自己と他者の尊厳に目覚め、
確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備え、
社会に積極的に関わる人間の形成にある。

○創立者の一人 J.B.ヘール宣教師の言葉

「独立した単位としての人格という概念は、日本人が今日まで教えられてきたあらゆる哲学にないものである。… 人間を一つの単位と考える観念、自分の行動については自分に責任があるのだという観念は、日本人に理解し難いものだった。」

○草創期ウキルミナ女学校校長アグネス.E.モルガンがミッションボードに書き送った教育の目標

「すべてに於いて私たちが目指すことは、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をするを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力のある人間を形成することです」

本学の教育の目的を示すミッションステートメントには、上記の創立から草創期を支えた二人の考え方が色濃く反映されている。

II. 教育内容と学習支援

1. 教育のふりかえり

1) 全般

2014 年度卒業生アンケート（2015 年 3 月卒業生）より

5. 大阪女学院大学について	はい		いいえ		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 学内はこの大学独特の雰囲気が濃い	70	89.7%	6	7.7%	2	2.6%
2. この大学は、より実用的・現実的教育をする傾向がある	58	74.4%	17	21.8%	3	3.8%
3. 学生はリーダーシップ養成の機会に恵まれている	55	70.5%	18	23.1%	5	6.4%
4. 大学は学生の能力や個性を活かす機会を与えている	65	83.3%	11	14.1%	2	2.6%
5. 学生の勉強意欲をかりたてるような教授方法を工夫し、実行している教員は少ない	24	30.8%	50	64.1%	4	5.1%
6. 一生懸命勉強しなくても、たいていの科目は簡単にパスできる	20	25.6%	57	73.1%	1	1.3%
7. 学生は授業中さされるまですすんで発言しない	19	24.4%	55	70.5%	4	5.1%
8. 教科書だけ勉強しておけばほとんどの試験に間に合う	25	32.1%	49	62.8%	4	5.1%
9. 学生は目標を高くおき、それに向かって努力している	56	71.8%	19	24.4%	3	3.8%
10. 教員は学生の能力を十分に引き出している	55	70.5%	19	24.4%	4	5.1%
11. 学生の間では真剣な知的レベルの高い討論がよく行われている	49	62.8%	27	34.6%	2	2.6%
12. 学問の厳しさを教える教員は少ない	34	43.6%	41	52.6%	3	3.8%
13. 誰でも単位を取り易い科目と、取りにくい科目を知っている	49	62.8%	24	30.8%	5	6.4%
14. 多くの教員は積極的に研究に携わっている	67	85.9%	7	9.0%	4	5.1%
15. 教員の研究室をたずねて、議論をしたり質問をしたりする 学生が多い	35	44.9%	38	48.7%	5	6.4%
16. ほとんどの科目では持続的な勉強や予習が必要である	59	75.6%	16	20.5%	3	3.8%
17. 知的レベルの高い授業が多い	59	75.6%	16	20.5%	3	3.8%
18. 学生は勤勉であり確固たる勉学目標を持っている	51	65.4%	22	28.2%	5	6.4%
19. この大学では入学すれば卒業は簡単である	8	10.3%	68	87.2%	2	2.6%
20. よい成績をとろうと努力する学生が多い	58	74.4%	16	20.5%	4	5.1%

2) 専門教育

2016年度の実施を目指してカリキュラムの見直しを開始した。専門科目の学修についての進め方や専門領域を学生が選択する時期について検討し3年次にコースを選択する制度へ変更することを決した。

3) 共通教育

○キリスト教教育

年間聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。(ローマの信徒への手紙 12:15)

・リトリート 主題 「つながり」

1年生リトリート 会場 アクティブラザ琵琶

Aグループ 2014年6月18日(水)～19日(木) 上地武 先生(日本基督教団大正めぐみ教会)

Bグループ 2014年6月19日(木)～20日(金) 朴 賢淑 先生(准教授)

2年生リトリート 会場 本学

◎礼拝の出席者数が増加した。

○人権教育

人権教育講座の実施 講義 13講座 10月30・31日

導入プログラム 「なぜ人間は人権遵守ができないか」 香川孝三教授

オープニング 「浪速の歌う巨人パキやんこと趙博氏」ライブとトーク 趙博氏

クロージング ふりかえりの参加者数400人以上(大学・短大合計数)

○導入教育

自校教育

学長が担当する「総合キャンパスプログラム演習」で本学の建学の精神を具現化するロールモデルとなる卒業生の講演を年間4回実施。

4) 英語教育

迎える学生の英語運用力の多様化に対応して、学生一人ひとりにとって、適切な教育環境を提供するため、2016年度からの実施をめざして英語の必修科目のカリキュラムの枠組みについて検討を進めた。

2. 学習支援

◎英語学習

1) ライティングセンター (Self Access Study Support Center)

1) SASSC内のライティングセンターの利用度 一つの学期の利用頻度

	10回以上	5回程度	3回程度	1・2回	全く利用しなかった	あることを知らなかった
1年	2	4	4	11	75	15
2年	0	3	14	34	34	1
3年	1	5	1	6	48	1

2) English Speaking Lounge

	10回以上	5回程度	3回程度	1・2回	全く利用しなかった	あることを知らなかった
1年	2	3	1	4	79	26
2年	0	0	0	3	77	13
3年	0	0	1	0	57	7

2年生以上の利用が少ないことが課題である。

3) チューター (Self Access Study Support Center)

SASSCに関するアンケートで1年生の回答者 68人の内、半数近くの32人が相談したいときがあると答えている。その割には利用が進んでいない。

4) 英語合宿

2015年度 英語合宿

(日程) 2015年2月23日(月)～25日(水)

(場所) あうる京北 (京都市右京区)

(参加者数) 2014年度 68名 内訳: 奨学金対象者 大学36名・短大20名 / 自己負担参加者 大学12名

◎導入教育・初年次教育による学習支援

1) 入学前教育の実施

月一回の割合で11月から3月まで計5回のスクーリングを入学試験合格者対象に実施。大学で学ぶことへの動機づけや問題意識を立ち上げることがねらい。在学生や教職員との関わりの機会、入学予定者同士の交流や友人関係の形成のきっかけとなるプログラムも提供した。

2) オリエンテーションの実施

BSが新生をサポートし、1泊2日の宿泊プログラムを含む入学式から8日間にわたるオリエンテーションプログラムを実施。本学で学ぶことの意味、学びの進め方、教育施設の利用法についての理解を深めた。

オーバーナイトオリエンテーション

日程：2014年4月3日（木）・4日（金）

会場：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

3) アドバイザー制度

- ① 1年生 8人の教員アドバイザーが担当し、年2回のアドバイザーアワーによる面談を実施
- ② 2, 3年生には14人の教員がアカデミック・アドバイザーとして履修承認面接を実施し、ベンチマークシステムの定着を図った。
- ③ eポートフォリオとアドバイザー制度の連携を開始

◎国際交流

国際交流

1) インターンシップ、フィールドスタディ先の拡充

- ・アメリカ西海岸でのインターンシップを新たに設定
- ・フィールドスタディ・ミャンマーを2015年度実施決定

2) 交換留学セメスタ留学生の受け入れと本学学生との交流

- ・アメリカ1名 (Queens College)、台湾8名 (元智大学 (YZU)) セメスタ留学生を受け入れ
- ・English Speaking Lounge の講師として採用

3) 「学内国際交流」の実践

- ・WIC (Wilmina International Center) を主会場に本学学生と交換留学生向けイベントを開催 (毎月1回)

◎教員養成

1) 教員養成センターによる学生支援プログラム

- ① 1年生向け 教職サークルの実施
 - ・教員養成センター担当教員の空き時間で設定されたサークルタイムに事前登録をして、毎週一回そのサークルタイムにその教職担当教員と学生とが集い、教育時事問題や今求められている英語授業の方向などについて話し合った。
- ② 「教育と人間」夏季講習の実施 2014年8月7～9日
 - ・1年生を対象に教職専修・教職課程を希望する学生の教職意識の啓発講習を中高の現職教員を招いて行った。
- ③ 教職フィールドワークの実施 2014年8月30日～9月5日
 - ・2年生：韓国 (3名参加)
- ④ 教員採用試験面接指導
教育実習事前事後の授業内で実施
- ⑤ 教育実習支援 10名が中学校・高等学校で実習を行い、研究授業を参観に現地に赴く。

Ⅲ. 教育の実施体制

1) 教育質転換への取組

- 「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1の支援対象校に選ばれたことを受けて、Learning Solution Center では、授業及び時間外学修内容の再検討と先行事例の現地検証を含めた研究を実施し新しい授業デザインの考案を行った。
- 初年次導入教育等で、iPad 及び Cloud を活用した本学独自の全学反転授業汎用プロトタイプを開発・実施した。その結果、全学授業評価アンケートにおいて、共通科目の全体的授業評価に改善が認められ、学修成果を落とすことなく、学修に際しての負担感について 52%から 33%へと 20 ポイント近い軽減が認められた。
- この成果は、平成 26 年度私情協「教育の質的転換を目指す ICT 利用による教育改善研究発表会」での報告を受けて、ICT活用教育方法研究 17(1) 掲載の代表例のひとつに選ばれている。
- 学生参画では、こうした iPad 及び Cloud を活用した特徴ある教育について、iPad サイトで学生自身が製作したコンテンツを発信してきた。成果として Google での検索順位の向上が見られ、教育広報活動に貢献が認められた。学生サポーター養成カリキュラムも学生と共に再検討を行った。

2) 学修解析 (Learning analytics) と活用

- 2004 年度開学以来の LMS 上の学修成果を検証しサーバ上の学修データの回収と組織化を行った。
- 並行して Learning Solution Center スタッフのデータ解析に関する SD を実施した。
- 2014 年度より本稼働に入った e-Portfolio に、2013 年度委員会で推薦を受けたコンテンツの登録を 2014 年度生から実施した。その過程で、学生一人ひとりの学びを辿る映像を含む様々な学修成果をいかに取り込むかについての研究開発を行い、次年度以降のデータ取込の標準化に寄与した。
- 従来から卒業生に配布してきた生涯アドレスによって e-Portfolio のストレージとなる Cloud 環境が卒業後も継承発展が可能となるよう設定した。これらの活動に関する社会的評価として、全国私立大学の情報環境に関する代表的指標のひとつである「平成 26 年度私立大学情報環境白書」の「特色ある事例」に、本学の e-Portfolio 大阪女学院ライフ(OJL)が取り上げられている。

2. 図書館の充実

1) iPad をフル活用するための教育基盤づくり

基幹 Public Cloud 上で行っている、iPad 及び LMS で利用した教材、さらには e-Portfolio 登録のために収集した学修成果物の組織化について、図書館システムで上記コンテンツを利活用可能なようにする整備を進めた。

Ⅳ. 学生支援

1. 奨学金

- ・姉妹等同時在学学費減免奨学金対象は 3 名
- ・また、奨学金関連の年間スケジュールの周知徹底を進めたことで締切や説明会の開催等の情報を見落とす学生が減少した。

- ・学生を経済的に支援する Wilmina Spirit Scholarship 奨学金を順調に拡充することができた。3割から4割の学生が受給（学費減免）している。

Wilmina Spirit Scholarship 奨学金支給実績（半期8万円学費減免）

W S S 奨学金受給者統計資料 2013～2014 年度末まで

人

	2013 年度入学生	2014 年度入学生
入学時	46	39
1 年次秋学期	48	60
2 年次春学期	47	
2 年次秋学期	42	

2. 生活サポート

- ・キャンパスが第二の家のように学生が感じることができるよう、居場所づくりを学友会に協力して進めた。
- ・自宅通学圏外から通学している学生対象に自炊による健康管理を薦める年間3回のプログラムを実施した。

3. 進路サポート

97.5%の就職率 2015年5月1日現在

景気の回復に伴いすべての業界で採用増となったが、企業の厳選採用は続いている。

学生ひとり一人のスキルアップも考えながら、就職活動の時期やタイミングを逃さない指導を行った。

4. 退学率低減への取組

欠席が続く学生に対して郵便やメール、電話で連絡をとり、面談を重ねた。

V. 研究活動

1. 大学院

1) 論文中間発表会の開催

10月15日に修士課程1名による修士論文の中間報告会を公開で開催。

2. 国際共生研究所

1) 研究会報告

公開研究会報告

4月 9日 公開講演会

10月17日 公開講演会 (国際協力コース GP セミナー共催)

2) プロジェクト1 「社会的公正に基づく共生」研究会

5月 7日 「核軍縮への人道的アプローチ」

7月 2日 「労働分野からみる人間の安全保障」

10月15日 「The reinterpretation of Japan's Constitution to allow Japan to exercise the right of collective self-defense」

10月15日 「国連人権理事会普遍的定期審査(UPR)の実態－トルコの第1回審査を中心に－」

12月 3日 「青年海外協力隊に参加した現職教員の異文化感受性レベルに関する分析」

3) プロジェクト2 「高等教育における英語教育のあり方」研究会

3月 2日 「iPad と外国語アクティブラーニング - 初級ドイツ語と多言語演習の実践事例」

4) プロジェクト3 「ファリシテーション・メディエーション」研究会

11月28日 「もしあなたが友達から打ち明けられたらどうする?～他人事ではない性被害～」

VI. 地域等への貢献

1. 教員養成センター (教員対象)

1) 文科省認定教員免許状更新講習の実施 3回 (合計18時間)

講習1: 2014年8月5日 (48名受講・定員30名) 4段階受講評価 3.90

「言語文化としての英語表現－英語の発想・日本語の発想と生き生きとした英語表現活動－」

講習2: 2014年8月6日 (49名受講・定員30名) 4段階受講評価 3.84

「授業指導技術スキルアップ演習: 発音・音読指導、リーディング指導、文法表現指導」

講習3: 2015年3月7日 (9名受講・定員30名) 4段階受講評価 3.89

「発信型の英語コミュニケーション能力の育成」

2) 授業デザインスキルアップ演習 現職教員支援無料講習 2014年8月8日 16名参加

「効果的なプレゼンテーションを行うために」

3) 勉強会「英語の教え方教室」年7回 第29回～35回実施

公・私立中学高等学校の現役の先生方の実践報告をもとに、効果的な指導について話し合った。

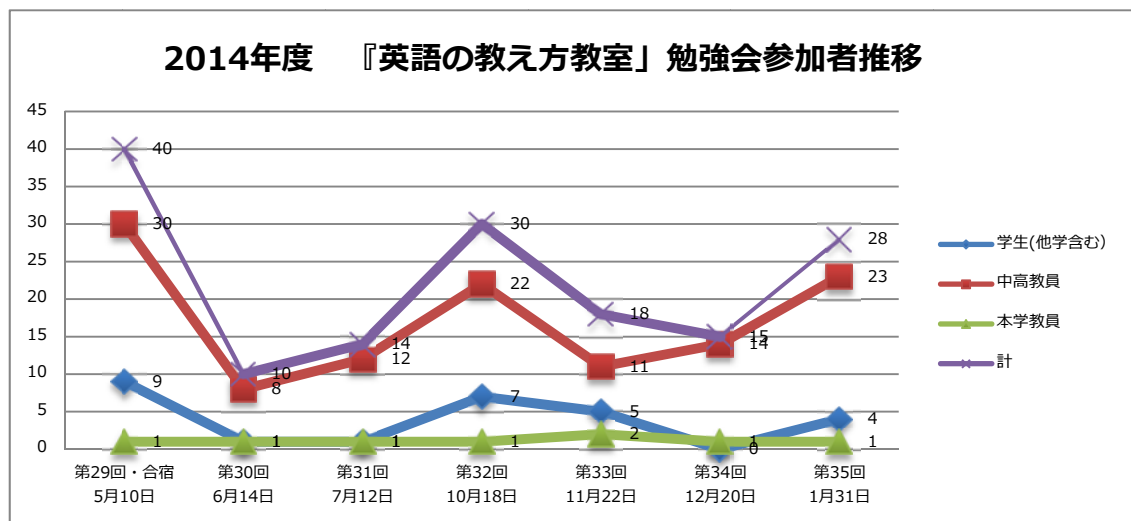
第29回 勉強会「英語の教え方教室」兼第2回「英語の教え方教室」合宿 in 長浜

「思考力をフル回転し、的確に要領よく相手に伝える表現力の育成」

第30回 「私の授業紹介と忍者学 Ninjalogy」

大阪府立枚方津田高等学校 池田 裕 教諭

- 第31回 「コミュニケーション英語―実践活動紹介―」
神戸大学附属中等教育学校 泉 美保、篠原 康子 教諭
- 第32回 「私の授業実践―英語を通じて世界を知ることをめざして―」
滋賀県立守米原高等学校 堀尾 美央 教諭
- 第33回 「エクセター大学での研修で学んだこと」
奈良県立高取国際高等学校 松川 慈 教諭
- 第34回 「教室英文法再考―英語ということばの理解―」
大阪女学院大学 中井 弘一
- 第35回 「中学校と高等学校の英語授業を通して見えてきたこと」
滋賀県立守山中学校 戸田 行彦 教諭



4) 教職ネットによる教育情報発信 (現在会員数：247名)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2015	20	14	25	17								
2014	13	27	30	27	19	20	17	13	11	14	15	10

新聞記事による教育情報や図書情報、素材情報などを登録者に ML 発信する。

5) 教員養成センター・ホームページによる情報提供

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

- ・ 巻頭エッセイ
 - 第四十八号(January) 量的世界の中の質的存在 (東條)
 - 第四十九号(February) ある日の授業から (中垣)
 - 第五十号(March) Lawe i ka ma'alea a kū'ono'ono (夫)
 - 第五十一号(April) グローバル化時代のパラドックス (中井)
 - 第五十二号(May) ネイティブ教員との協働に学ぶ (東條)
 - 第五十三号(June) 最近の新聞記事から (中垣)
 - 第五十四号(July) 花道 (夫)
 - 第五十五号(August) 「心の振幅」-興味、関心の扉を開く英語 (中井)
 - 第五十六号(September) No Worry (東條)
 - 第五十七号(October) 大阪府における英語教育の方針：時事ニュースより (夫)
 - 第五十八号(November) 「外国語活動」から「教科」へに思う (中垣)
 - 第五十九号(December) 「時代の風」-未来圏から吹く風 (中井)
- ・ 書籍紹介 2014 年度 69 冊を紹介
- ・ 勉強会報告
- ・ 免許状更新講習報告 等

6) 教員養成センター機関誌 Vol. 5 の発行

現職の中高の教員の実践報告を掲載することにより実践教育の支援を行う。

7) 個別の高等学校や府県の高等学校高等学校英語研究会などの直接依頼による講演活動

兵庫県、奈良県、滋賀県の高等学校へ特別授業実施

2. 生涯学習

1) Wilmina Extension School

大阪女学院卒業生及び地域社会の女性の方々に生涯学習の機会を提供するウキルミナ・エクステンションスクールは、2013 年度の再開以来 2 年を経過した。開講講座及び受講生数は以下の通りである。

	2013 年度		2014 年度	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
開講講座数	9	7	9	10
受講生数	71	54	62	79

本学の特色であり強みである英語教育や韓国語など質の高い生涯学習の場を受講生に提供している。
 なお、講座内容、講座数の拡充は今後の検討課題である。

2) Wilmina 公開講座

2013 年度から開始の対話シリーズ「共生への対話」は、講師の日程が合わず 2015 年度は開催を見送った。

Ⅶ. 学生募集・広報

1. 学生募集

1) 大学案内の改訂を活かした学生募集広報活動の推進

「大学案内」改訂の内容と効果

学生の成長のプロセスや卒業生の活躍を紹介することで、一人ひとりの歩みに通底している本学の願い、いわば教育理念を伝えることに主眼を置いた「大学案内」を 3 回にわたって発行した。本学の教育の本質を時節に応じた適切な情報の提供と併せて、繰り返し受験生に伝える試みでもあった。これが、高校での説明会や専任教員による模擬授業への積極的な参画など、高校 1 年生 2 年生の段階から直接、高校生に本学の魅力を伝える機会を持ち続けてきたこととも複合的に作用し、オープンキャンパスの参加者数増と 20 人を超える年内の専願入試による入学者数増をもたらしたと思われる。一般入試等の年明け以降の入試による入学者数は昨年度と同数であったため、この年内の専願入試による入学者数増がほぼそのまま入学者総数の増をもたらす結果となった。外国人留学生の受け入れに本格的に取り組み、4 名の留学生を迎えることができたことも寄与している。

2) 高校教員対象の説明会

また、高校教員対象の説明会では、本学での iPad を活用した英語教育をさらにアピールし、積極的に授業の公開を行うなど、高校教員の本学の教育に対する信頼をさらに強固なものにすることに努めた。

3) オープンキャンパス開催日別参加者数

2014 年	3/25	3/29	4/29	6/1	6/22	7/13	7/21	7/27	8/10	8/17	9/14	9/21	10/13	11/3	12/13
参加者数	22	7	29	25	46	45	70	34	0	93	50	20	11	32	23
累計人数	22	29	58	83	129	174	244	278	278	371	421	441	452	484	507
			通常授業日 授業公開		A0 レクチャー	A0 レクチャー	通常授業日 授業公開 A0 レクチャー	A0 レクチャー	台風接近による 中止	A0 レクチャー	A0 レクチャー	A0 レクチャー	台風接近のため、11時半 まで開催 通常授業日 授業公開	通常授業日 授業公開	

開催回数の増加が一定の効果を上げている。

VIII. 施設・設備の整備

施設設備

空調関係の改修、漏水関係の補修を実施した。

IX. 自己点検・評価と改善に向けての制度等整備

1. 卒業生進路調査

「卒業生の就業及び社会活動状況調査」の実施と回収率を上げる取組の継続

2. FD及びSD活動

NPO法人NEWVERYの協力を得て学生募集活動および退学防止等に係るSDを関係部署の職員や関係委員会の教員が継続的に参加して集中的に行った。

3. 自己点検・評価

本学の教育研究活動に関するPDCAサイクルを十分に機能させるため、特にCheckからActionにつながる動きを、委員会活動などを通じて、明確に学内に提示する動きに努めた。

4. 危機管理

I Sの台頭等、国際情勢に不安が広がる中、海外プログラムのうち、地域研究南アジア-フィールドスタディー（バングラディッシュ）を中止し、STLAP（オーストラリア）とセメスター留学（台湾、韓国）では家庭における判断を尊重し、参加取り消しを認める措置を取った。特にバングラディッシュプログラムは外務省及び現地情報を収集し、学長と国際交流委員会及び危機管理委員会の連携の中で、迅速な判断と対応を行った。大規模災害時における本学の対応については、火災時を想定した避難訓練を実施し、また地震による災害は、大阪府の一斉防災訓練に参加して、教職員および学生の緊急時対応力を喚起した。

5. 人的体制の整備

部署間における協力・連携を推進し、現行で最重点課題である募集業務を中心とした事務局体制を志向した。